環境振動設計指針策定検討WG／環境振動設計指針刊行検討WG
2018年度第8回 議事録（案）

Ａ．日　時　　2019年2月27日　水曜日　17:30～19:30

Ｂ．場　所　　建築学会　305会議室

Ｃ．出席者

濱本主査	○	原田幹事	記	相原	○	石田	○	小田島	
片岡	○	上明戸	○	小島	○	佐伯	○	崔	○
富岡	○	西川	○	東田	○	山中	○	吉松	
（オブザーバ）		（国松）		（鈴木）	○	（松本）		（横山）	

敬称略　50音順（主査・幹事を除く）

Ｄ．提出資料（提出委員名）… すべてオンラインストレージに格納

No.18-8-0　環境振動設計指針策定小委員会/策定検討 WG・環境振動設計指針刊行小委員会/刊行検討WG　2018年度第7回議事録(案)（上明戸）

No.18-8-1　190201_清水 平戸氏の質疑（山中）

No.18-8-2　190204_清水 平戸氏の質疑に対する回答案（山中）

Ｅ．議事内容

１．議事録(案)の確認（資料No.18-8-0）

○議事録(案)は承認された．案をとって議事録とする．

２．環境振動シンポジウムの質問と回答について（資料No.18-8-1，No.18-8-2）

○清水建設の平戸氏よりFAXで3件の質問があった．

・質問1：継続時間T の算出方法について

・質問2：歩行人数と低減係数の考え方について

・質問3：簡易法による低減係数について

○山中委員より回答案の説明があり，内容の確認が行われた．

・質問1，質問2への回答は原案のまま承認された．

・質問3への回答については「簡易法による低減係数は，評価規準の方法で正確に計算した低減係数よりも十分に大きな値となるため，一人歩行に対しては十分すぎる安全率が確保されている．したがって，簡易法による低減係数をそのまま二人歩行に適用したとしても，設計上は全く問題ないといえる.」というスタンスで表現を見直すこととなった．

→修正は山中委員に一任．修正後，濱本主査に送信し，運営委員会にご提出頂く．

３．環境振動設計指針について（濱本）

○指針刊行までのスケジュールについて説明があった．

・2019年 7月まで：各SWGの1次原稿完成

・2019年 9月まで：少人数でブラッシュアップ，査読原稿作成

・2019年12月まで：査読終了，印刷準備開始

・2020年6月18日：指針出版講習会

○指針の構成・内容について説明があり，意見交換が行われた．

・1 章 概要，2 章 自然振動源，3 章 内部振動源，4 章 外部振動源，5 章 振動計測とする．2 章から 4 章では，最初に性能マトリクスや設計フローなどの一般論を説明し，その後，設計例を示すこととする．

→2017 年 6 月 20 日に示された目次案から章立てが大きく変わっているため，新たな目次案の作成が必要と思われる．

→濱本主査が目次案を作成し，オンラインストレージに格納する．

・設計指針では 1 自由度での設計を基本とし，最大応答を確実に捉えるために 1/3 オクターブバンド分析は使用しないことを原則とする．

４．性能マトリクスについて

○表示形式について議論し，以下の通り決定した．

・縦軸，横軸ともに離散値とし，マス目での表示（グレード境界は斜め線ではなく段々のイメージ）とする．

← 評価レベル(横軸)の境界は“あいまいさ”を含んだ線である．

← マトリクスとは本来，マス目(離散値)で捉えるものである．

○評価レベル(横軸)の説明文(表現)について議論した．

・設計指針では水平と鉛直で同じ説明文を用いる．評価規準の説明文と必ずしも一致させる必要はない．設計者の使いやすいように本 WG の責任で変更する．

・気になり度や不快度の表現については，環境振動運営員会のホームページに掲載されている「居住性からみた環境振動評価に用いる標準的な判断範ちゅうについて」や，2019 年 3 月の黄表紙に掲載される林ほかの論文「アンケート調査に基づく建物内の振動に対する心理的反応の評定尺度構成」が参考になると思われる．

５．その他

○過去の環境振動シンポジウム原稿および「音響技術」掲載原稿を学会サーバーの本日のフォルダに格納した．適宜参照されたい．

○次回 WG 開催：2019 年 4 月 16 日（火）15:00～17:00

・各 SWG より指針原稿の素案を提出し議論する．

(次回の原稿は環境振動シンポジウム等の過年度原稿を繋げた程度で良い)

以上